



加藤 泰浩 (KATO Yasuhiro)

東京大学大学院工学系研究科エネルギー・資源フロンティアセンター 教授

東京大学理学部地学科卒業、
東京大学大学院理学系研究科博士課程（地質学専攻）修了。
理学博士。

日本学術振興会特別研究員、山口大学理学部助手、米国ハーバード大学客員研究員、英国ケンブリッジ大学客員研究員、東京大学大学院助教授、准教授をへて、現在に至る。千葉工業大学 次世代海洋資源研究センター センター長、海洋研究開発機構（JAMSTEC）招聘上席研究員も兼任。

日本の最先端産業を支えているレアアースやレアメタルなどの有用金属資源がどのように生成し濃集したのか、そのメカニズムを解明する研究を行っている。こうした有用金属資源は、地球表層の物質循環や地球環境の変動に密接に関連して生成している。したがって、資源の成因の解明は地球の環境変動を解明することにもつながっている。地球環境がどのように変動したのか、特に大気-海洋系の二酸化炭素濃度や酸素濃度がどのような地球システムに支配され、変動してきたのか（これから変動しうるか）にも興味を持ち、研究を展開している。

2011年7月、『ネイチャー・ジオサイエンス』誌にて、太平洋の海底にレアアース（希土類）を含む泥の大鉱床があることを発表して世界中で大反響を呼んだ。
主な著書に『太平洋のレアアース泥が日本を救う』（PHP 新書）など。